

まずは、^{ことわざ} 諺や俳句、『百人一首』から

いくら音読だけでよいとはいえ、古典となると若いお母さん方にとっては、敷居が高く感じられるかもしれません。ところが、古典といっても決して堅苦しく考える必要はなく、最初はお母さん方にも身近な題材から、遊びの延長としてはじめればよいのです。

そうした面から、入門編としておすすめなのが、諺です。「頭隠して尻隠さず」「犬も歩けば棒にあたる」「鬼に金棒」「猿も木から落ちる」といったように、江戸時代から伝わるお馴染みの諺には独特のリズムがあり、意味を知らなくても具体的なイメージが思い浮かぶ平易でユーモラスな表現は、子どもにとってもとても楽しいものなのです。

また、俳句や『百人一首』の七五調のリズムも、幼児にはたいへん覚えやすいものです。俳句や和歌の、限られた字数の中に凝縮された美しい表現は語感を磨くのにとても役立ちますし、文語表現に無理なく親しんでいくのにも適しています。

音読のやり方としては、画用紙などに漢字かな交じりで書いてあげたもの、あるいは石井式の漢字かるた(153頁参照)などを使い、漢字カード同様、まず読んであげて続けてお子さんがくり返す、という方法をとるとよいでしょう。

そして、たとえば一週間で七枚のカードが読めるようになったら、その七枚を使ってかるた遊びをする、というような形に発展させていくと、お子さんの興味もますます深まります。